

目 次

【1年前期・通年】

美と感性	1～4
暮らしと環境	5～7
文章表現法	8～10
コンピュータ演習	11～13
食にかかわる化学	14～16
世界の食文化 <通年科目>	17～19
英語コミュニケーション	20～22
外国語（ハンデル）	23～25
外国語（日本語）	26～28
インターンシップ <通年科目>	29～30
ビジネスマナー	31～34
純真ゼミナールⅠ	35～37

【1年後期】

純真ゼミナールⅡ	38～40
----------	-------

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数	
美と感性	篠原 利朗	1	前期	講義 演習	選択	2	
	担当形態	単独	ナンバリング		FN1101		
	担当教員	篠原 利朗					
【キーワード】	【概要】						
1 美の原理	美しさの原理を形と色の観点から追求し、また、美を形成する原理を知ることが創造することの助けになりうることを学ぶ。様々な美の原理を、変化と統一との関係から互いに有機的に関係付けて把握し、これを様々な課題を通して繰り返し体験することで、自らの感性を磨く。						
2 色彩調和							
3 配色イメージ							
4 イラストレーション							
5 感性							
【到達目標】							
1. 美を形成する形と色の原理を理解できる。							
2. デッサンやイラストレーション、構成の基礎的な技術を身に付けることができる。							
3. 色彩調和や配色イメージ、色の機能を理解し、目的に応じた色彩表現ができる。							
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性	
【知識・理解・技能】							
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。							
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。							
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。							
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							○
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。							
【関心・意欲・態度】							
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。							
【成績評価の方法】							
成績指標	作品（課題および実技試験）		授業態度等			合計	
評価割合（％）	80%		20%			100	
【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
【評価内容】（ルーブリック）							
評価項目	4	3	2	1			
理解度	授業内容を超えた自主的な学習が大いに認められる。	授業内容を超えた自主的な学習が認められる。	授業内容を十分に理解している。	授業内容を概ね理解している。			
作品	授業内容を超えた自主的な学習が認められる内容、あるいは参考作品として紹介できる完成度を有した作品を制作している。	提示された課題の内容と素材の特性を理解した上で、表現の工夫等を取り入れて制作することができる。	提示された課題の内容と素材の特性を理解し、制作できる。	提示された課題内容と素材の特性を最低限度理解し、制作できる。			

積極性	自ら興味を持って課題への取り組みや関連する知識の取得を能動的に遂行できる。	積極的に課題への取り組み、問題解決しようとしている。	教員の指導を尊重し、課題への取り組みができる。	最低限の課題への取り組みをしている。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
課題提出後、コメントを返却する。						
【教科書】						
『カラー&ライフ』日本色研事業株式会社						
【参考書・参考資料等】						
『カラーマスター・ベーシック』篠原利朗他（NPO法人ADEC出版局）						
『美の構成学』三井秀樹（中公新書）						
【関連科目】						
【受講心得】						
意欲的に参加すること。						
【備考】						
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）			
1	美を形成する原理		<学習内容> 絵画や彫刻の美術作品や建築、あるいは自然界の中に見られる美の原理（構成原理）について解説する。また、欧米と日本の美に対する考え方、感じ方の違いについても触れる。 <事前学習> 事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。 <事後学習> 美の原理（構成原理）についてまとめておく。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間			
2	色彩の基礎学習①		<学習内容> 色の仕組み（色相・明度・彩度・トーン）について解説する。 <事前学習> 教科書p4～6を読んでおく。 <事後学習> 配布プリントで復習する。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間			
3	色彩の基礎学習②		<学習内容> 色相配色とトーン配色について解説する。色紙（トータルカラー）を用いて色彩学習を行う。 <事前学習> 色相環とトーンについて復習しておく。 <事後学習> 色彩調和を得るための方法についてまとめておく。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間			
4	色彩の基礎学習③		<学習内容> アクセントカラー、セパレーションカラー、ドミナントカラー等について解説する。色紙（トータルカラー）を用いて色彩学習を行う。 <事前学習> 教科書p7を読んでおく。 <事後学習> 作業の遅れを進める。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間			

5	色彩の基礎学習④	<p><学習内容>色相別、トーン別の色彩イメージについて解説する。色紙（トータルカラー）を用いて色彩学習を行う。</p> <p><事前学習>教科書p7を読んでおく。</p> <p><事後学習>作業の遅れを進める。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
6	色彩の基礎学習⑤	<p><学習内容>寒暖感・硬軟感・軽重感・強弱感・派手地味感等の配色イメージ表現について解説する。</p> <p><事前学習>教科書p12～13を読んでおく。</p> <p><事後学習>配色イメージについてまとめておく。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
7	色彩の基礎学習⑥	<p><学習内容>色の見え方や錯覚（対比と同化）について解説する。また、それらの現象や効果が日常の中でどのように活かされているか（おいしく見せる方法等）解説する。</p> <p><事前学習>教科書p13を読んでおく。</p> <p><事後学習>色の見え方についてまとめておく。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
8	色彩の基礎学習⑦	<p><学習内容>四季を表す配色イメージについて解説する。色紙（トータルカラー）を用いてランチョンマットの制作を行う。</p> <p><事前学習>四季のイメージについて考えておく。</p> <p><事後学習>演習課題の遅れを進める。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
9	色彩の基礎学習⑧	<p><学習内容>見やすさ（視認性）、目立ちやすさ（誘目性）、区別のしやすさ（識別性）など色の伝達機能について解説する。</p> <p><事前学習>色の伝達機能について調べておく。</p> <p><事後学習>色の伝達機能についてまとめる。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
10	色彩の基礎学習⑨	<p><学習内容>味覚を表す配色イメージについて解説する。色紙（トータルカラー）を用いて配色演習を行う。</p> <p><事前学習>どのような味覚があるか考えておく。</p> <p><事後学習>演習課題の遅れを進める。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
11	デザインの基礎学習①	<p><学習内容>文字の書体やレイアウトにおける「まとまり（グルーピング）の法則」など、デザイン制作を行う上での重要な事象について解説する。</p> <p><事前学習>普段使用しているパソコンの書体の種類について調べておく。</p> <p><事後学習>「まとまり（グルーピング）の法則」についてまとめる。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>

1 2	描写表現の基礎学習①	<p><学習内容>基本的な構図の取り方と単純な形をした立体の描き方を解説する。鉛筆デッサンを行う。</p> <p><事前学習>静物画、静物デッサン等の画像を検索し、研究しておく。</p> <p><事後学習>演習課題の遅れを進める。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
1 3	描写表現の基礎学習②	<p><学習内容>イラストレーションの表現方法について解説する。レシピノートに用いるイラストレーションの制作を行う。</p> <p><事前学習>レシピについて調べ、イラストレーションに用いる写真画像を探しておく。</p> <p><事後学習>レシピノートのアイデアを考えておく。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
1 4	デザインの基礎学習②	<p><学習内容>レシピノートの制作を行う。</p> <p><事前学習>レシピノートのアイデアおよび表現材料について考えておく。</p> <p><事後学習>作業の遅れを進める。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
1 5	デザインの基礎学習③	<p><学習内容>メニュー表を完成させる。</p> <p><事前学習>不足しているイラストレーションを描いておく。</p> <p><事後学習>完成までの作業を進める。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
1 6	試験	色彩構成の実技試験

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
暮らしと環境	都築 廣久	1・2	通年	講義・演習	選択	2
	担当形態	複数	ナンバリング	FN1102		
	担当教員	都築 廣久、宅間 真佐代、下村 久美子、今村 隆信、橋本 聖子、津村 有紀、松元 祥子				
【キーワード】	【概要】					
1 食育	奉仕活動と学習活動を兼ねた「サービスマーケティング」に取り組み、併せて全学的な広報活動、学内で実施される学科主体の公開講座、学外企業との共同企画に係わることにより、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、ボランティア精神、自発性、協調性、積極性及び表現力を磨くこととする。					
2 環境						
3 広報活動						
4 社会貢献						
5 公開講座						
【到達目標】						
1. 全学的な活動で自己を成長させることができる。						
2. 奉仕活動への意識を増長させることができる。						
3. 地域貢献活動の成果を認識することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。						○
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。						○
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。						○
【関心・意欲・態度】						
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。						○
【成績評価の方法】						
成績指標	課題・提出物		取り組み姿勢・態度			合計
評価割合 (%)	70		30			100
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【評価内容】 (ルーブリック)						
評価項目	4	3	2	1		
課題への意欲	課題作成に極めて意欲的に取り組んでいる。	課題作成に意欲的に取り組んでいる。	概ね課題作成に意欲的に取り組んでいる。	課題作成が消極的で意欲が欠けている。		
取り組み姿勢	リーダー的な存在で極めて積極的である。	意欲的に取り組み積極的である。	概ね前向きな気持ちで取り組んでいる。	前向きな気持ちがなく消極的である。		
取り組み態度	常に明るく好意的な態度で取り組んでいる。	頻繁に明るく好意的な態度で取り組んでいる。	好意的な態度で取り組んでいる。	概ね好意的な態度で取り組んでいる。		
挨拶と時間管理	誰にでもきちんと挨拶をして時間を管理することができる。	きちんと挨拶できて時間を管理することができる。	挨拶と凡そ時間を管理することができる。	挨拶と時間管理ができていない。		
チームワーク	チーム内でリーダーシップを発揮している。	チームワーク作りに積極的に貢献している。	チームワーク作りに貢献している。	チームワーク作りに消極的である。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
取り組み姿勢とレポートに関するコメントを返却する。		
【教科書】		
特に指定しない。適宜資料を配付する。		
【参考書・参考資料等】		
特に指定しない。		
【関連科目】		
「純真ゼミナールⅠ」「純真ゼミナールⅡ」		
【受講心得】		
自ら積極的に活動に取り組む姿勢をもつこと。		
【備考】		
活動内容の実施状況に応じて、学習内容を変更する場合がある。		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	都築 宅間 今村	<p><学習内容>授業の目的と具体的な全学的な広報活動例、学内で実施される学科主催の講座、学外企業等との共同企画を紹介する。</p> <p><事前学習>ボランティア活動について調べておくこと。</p> <p><事後学習>履修への思いや学びに向けた考えなどを「事前レポート」にまとめて提出する。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
2	今村	<p><学習内容>ボランティアとは何かについて、その特性や意義、役割等を通して学習するとともに、グループ協議を行いまとめる。</p> <p><事前学習>自身が体験したボランティア活動についてまとめておくこと。</p> <p><事後学習>学習したことをグループでレポートとしてまとめ、提出する。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
3	今村	<p><学習内容>生涯学習の観点から、ボランティア活動の動きや社会的な役割について理解を深める。</p> <p><事前学習>生涯学習について調べておくこと。</p> <p><事後学習>生涯学習とボランティアについてグループでレポートにまとめて提出する。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
4	今村	<p><学習内容>生活環境にかかわるボランティア活動と生きることに関するボランティア活動の種類と意義について理解を深める。</p> <p><事前学習>ボランティア活動の種類について調べておくこと。</p> <p><事後学習>自分たちがボランティア活動に参加するとして、グループでレポートにまとめて提出する。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
5	宅間 下村 津村 松元	<p><学習内容>近隣地域との共同企画によって開催する「料理教室」において食育に関する講話や調理、実習、ワークなどを行う。</p> <p><事前学習>料理メニュー、食材の下処理、媒体の作成を行う。</p> <p><事後学習>取り組んだコラボ企画の事後レポートを作成・提出する。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
6	宅間 下村 津村 松元	<p><学習内容>近隣地域との共同企画によって開催する「料理教室」において食育に関する講話や調理、実習、ワークなどを行う。</p> <p><事前学習>料理メニュー、食材の下処理、媒体の作成を行う。</p> <p><事後学習>取り組んだコラボ企画の事後レポートを作成・提出する。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>

7	地域貢献活動 (3)	都築 宅間 下村 橋本 津村 松元	<p><学習内容>主に学内行事の支援学生として、来訪者に対応する。</p> <p><事前学習>当日の担当部署の役割分担を考えておくこと。</p> <p><事後学習>当日の担当部署の後片付けの確認を行う。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
8	地域貢献活動 (4)	都築 宅間 下村 橋本 津村 松元	<p><学習内容>主に学内行事の支援学生として、来訪者に対応する。</p> <p><事前学習>当日の担当部署の役割分担を考えておくこと。</p> <p><事後学習>当日の担当部署の後片付けの確認を行う。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
9	地域貢献活動 (5)	都築 宅間 下村 橋本 津村 松元	<p><学習内容>主に学内行事の支援学生として、来訪者に対応する。</p> <p><事前学習>当日の担当部署の役割分担を考えておくこと。</p> <p><事後学習>当日の担当部署の後片付けの確認を行う。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
10	地域貢献活動 (6)	都築 宅間 下村 橋本 津村 松元	<p><学習内容>主に学内行事の支援学生として、来訪者に対応する。</p> <p><事前学習>当日の担当部署の役割分担を考えておくこと。</p> <p><事後学習>当日の担当部署の後片付けの確認を行う。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
11	公開講座 (1)	宅間 下村 津村 松元	<p><学習内容>小学生を対象にした「ランチにチャレンジ講座」を開催する。</p> <p><事前学習>料理メニュー、食材の下処理、媒体の作成を行う。</p> <p><事後学習>公開講座の事後レポートを作成・提出する。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
12	公開講座 (2)	都築 橋本	<p><学習内容>小学生を対象にした「サイエンスにチャレンジ講座」を開催する。</p> <p><事前学習>試薬の調製、媒体の作成、食材の下ごしらえをしておくこと。</p> <p><事後学習>公開講座の事後レポートをまとめておくこと。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
13	実践報告会 (1)	都築 宅間 今村	<p><学習内容>各種活動で学んだことを中心に報告する。</p> <p><事前学習>様々な取り組みで学んだ内容をまとめて発表資料を用意しておくこと。</p> <p><事後学習>様々な取り組みについて「事後レポート」をまとめておくこと。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
14	実践報告会 (2)	都築 宅間 今村	<p><学習内容>各種活動で学んだことを中心に報告する。</p> <p><事前学習>様々な取り組みで学んだ内容をまとめて発表資料を用意しておくこと。</p> <p><事後学習>様々な取り組みについて「事後レポート」をまとめておくこと。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
15	まとめ	都築 宅間 今村	<p><学習内容>初回から第14回までの内容の総まとめを行う。</p> <p><事前学習>各種活動の成果をまとめておく。</p> <p><事後学習>履修した感想や学びの達成観などを「事後レポート」にまとめて提出する。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
文章表現法	平嶋 一臣	1	前期	講義	選択	2
	担当形態	単独	ナンバリング		CE1104	
	担当教員	平嶋 一臣				
【キーワード】	【概要】					
1 文脈と文章	さまざまな『文章表現』の型と方法を学ぶ。授業中は積極的に自己表現するための文章づくりの場を設定する。また、毎回の授業後、全体で800字～1000字程度のレポート提出を求める（添削をして次回の授業前に返却）。					
2 国語表現						
3 日本語						
4 表現方法						
5 国語文法						
【到達目標】	1. 良い文章づくりのための『多読』『多作』『多思』の習慣を持つことができる。 2. 様々な文例を通して、より正確で分かり易い文章構成を行うことができる。 3. 自分の考えを、論理的な文章に組み立て、外に向かって積極的に表現することができる。					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験		課題レポート		合計	
評価割合 (%)	70		30		100	
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	毎時間課題レポートを提出する。次週の初めに添削した課題を返却し、その反省点に立ち本時のスタートとする。					
【教科書】	平嶋一臣編・著『講義資料』より、必要に応じてプリント・配布する。					
【参考書・参考資料等】	『日本語』 金田一春彦 岩波新書 『文章の書き方』 辰濃和男 岩波新書 『講義資料』平嶋一臣編・著					
【関連科目】						

【受講心得】		
<p>授業に集中し、毎回時間内に小レポートを提出する。 また、意見発表に積極的に取り組むこと。進行状況により授業計画の一部変更もありうる。</p>		
【備考】		
<p>事前学習のために、積極的に図書館を利用する。 毎回の授業に、平嶋式文章検定2級レベル・漢字検定2・3級レベルの小テストを計7分間挿入する。 また、授業後提出する800字～1000字程度のレポート提出をもって出席を確認する。</p>		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション・文章表現のさまざま	<p><学習内容>授業中の約束事を連絡した後、15回の授業の概要を説明し、基本的な事前・事後の学習について説明する。 <事前学習>15回分の講義要項（シラバス）に目を通し、質問内容をまとめておく <事後学習>15回の講義要項の概要を確認しておく （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間</p>
2	日本語の成り立ちについて①	<p><学習内容>表音・表意のどちらも兼ねている特殊な国語である日本語の特徴を理解するとともに、国字の種類を知る。 <事前学習>漢字・国字の違いを調べ、あらかじめ国字について10個以上調べ、その成り立ちと特徴を調べておく。 <事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間</p>
3	日本語の成り立ちについて②	<p><学習内容>漢字を日本語読みにする時に起こる多拍化について理解するとともに、擬音語・擬態語の特徴を知る。 <事前学習>擬音語・擬態語を調べ、その成り立ち別に分類しておく。 <事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間</p>
4	日本語の特質を知る①	<p><学習内容>漢字発祥の中国をはじめ、西洋・米国から移入した文字に和語が重なって出来ていった、日本語の語彙の多さについて再確認する。 <事前学習>漢語・和語・外来語について、その意味と具体例を調べておく。 <事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間</p>
5	日本語の特質を知る②	<p><学習内容>自然と密接なつながりをもって成立していった日本語の特質および俳句・和歌などの関連を知る。 <事前学習>自然を詠った俳句・和歌について、人口に膾炙されているものを中心に調べておく。 <事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間</p>
6	論理的な文章に学ぶ①	<p><学習内容>単文・複文の型を知るとともに「ねじれ文」の起こりやすい文章（場面）を再確認する。 <事前学習>毎時返却された自分のレポート中から、自分の文型の特徴を調べておく。 <事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間</p>
7	論理的な文章に学ぶ②	<p><学習内容>序破急・起承転結文など、論説文の基本型を学ぶとともに、これまでの自分の提出レポートは、相手に伝わりやすい文章だったのか、様々な角度から検証する。 <事前学習>毎時返却した自分のレポートを読み、朱書き添削された部分から、自分の文章の特徴（長所・短所）に気づく。 <事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間</p>

8	論理的な文章に学ぶ③	<p><学習内容>序破急・起承転結文のいずれかを選択し、与えられた課題について、600～800字程度でねじれ文の無い論旨明快な小論を書く。</p> <p><事前学習>図書館にある多くの書籍から小論を読み、参考になる小論構成について意見を持つ。</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間</p>
9	ビジネス文書の基本を学ぶ	<p><学習内容>日本語における敬語表現・ビジネス語表現の基本を知るとともに、具体的な使用方法について確認する。</p> <p><事前学習>ビジネス用語・ビジネス表現について、どのようなものが有るのか調べておく。</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間</p>
10	自己推薦文を書く	<p><学習内容>将来の就職試験を想定し、自己アピールのポイントを確認し、800字程度の自己推薦文を書く。</p> <p><事前学習>自分の長所・短所について様々な角度から分析し、自己推薦に繋げていくかを立案しておく。</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間</p>
11	手紙文に学ぶ	<p><学習内容>手紙文・葉書文の基本形式を知るとともに、実際の場面での使用方法について理解する。</p> <p><事前学習>これまでに受け取った手紙・葉書を読み直し、そこに見られる日本文の特徴を知っておく。</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間</p>
12	エッセイに学ぶ	<p><学習内容>最近身の回りに起こった事例を再確認し、周りの友人にそのことを伝える文章を800字程度で表現する。</p> <p><事前学習>エッセイ集や新聞のコラムから、自分の気に入った文章を選び、その優しく訴える文章を学んでおく。</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間</p>
13	詩・短歌（和歌）・俳句に学ぶ	<p><学習内容>日本語における詩・短歌（和歌）・俳句の美しさや調べを学ぶとともに、純真学園の学園訓や学園キャンパスをテーマに、自分の作品を創る。</p> <p><事前学習>最近の新聞の文芸欄から、自分の印象に残っている詩・短歌（和歌）・俳句を読み込んでおく。</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間</p>
14	幼児・児童向けの短編童話づくり①	<p><学習内容>幼児・児童向けの童話を書くにあたり、全体をどのように構成するか、そのプロットを作成する。</p> <p><事前学習>図書館にある幼児・児童向けの童話を読み、その特徴を掴んでおく。</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間</p>
15	幼児・児童向けの短編童話づくり②	<p><学習内容>前時に作成した幼児・児童向けの童話のプロットを基に、童話を完成させる。</p> <p><事前学習>童話を完成するにあたり、幼児にもわかる言葉で書いているか、あらかじめ点検しておく。</p> <p><事後学習>15回の授業を振り返るとともに、次回定期試験に向け、『文章表現法』の基本的事項について復習しておく。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 2 時間</p>
16	定期試験	15回の授業を終え、授業の理解度を再確認する。

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
コンピュータ演習 (食物栄養学科)	本井 碧	1	前期	演習	選択	2
	担当形態	単独		ナンバリング	FN1104	
	担当教員	本井 碧				
【キーワード】	【概要】					
1 セキュリティ対策	情報通信技術の発展に伴い、コンピュータに代表されるような情報機器はビジネスのみならず家庭にも普及し、現代人には必要不可欠な道具のひとつとなった。この演習においては、本短大コンピュータ室の機器の使い方やアプリケーションソフトの具体的な操作を通し、情報の収集、整理、処理、伝達手法を学び、今後の各種レポート作成などに利用活用できるようにする。さらに、急激に普及し身近になったSNSの利用やネットワークセキュリティポリシーなど、演習を行いながら昨今の情報化社会で役立つ技術やリテラシーを身につけることを目的とする。					
2 コンピュータリテラシー						
3 コンピュータスキル						
4 インターネット・メール						
5 情報基礎						
【到達目標】	1. パーソナルコンピュータの基本的な操作ができる。 2. インターネット、SNSの知識を習得し、取り扱うファイル、画像など説明ができる。 3. Microsoft Office (Word、Excel、Powerpoint) ソフト等を活用できる。					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。						
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。						
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	授業課題作成提出内容			受講態度等		合計
評価割合 (%)	70			30		100
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	提出課題にコメント・点数をつけて返却する。各自で指摘内容を確認して修正すること。					
【教科書】	杉本くみ子、大澤栄子 著 「30時間でアカデミック 情報リテラシー Office2021」 実教出版					
【参考書・参考資料等】	適宜指示する。					
【関連科目】						

【受講心得】		
<p>毎回の講義内容が次回の内容に関連するため、講義時間内に出来なかった課題は必ず次回までに完成し、提出すること。 遅刻、早退、欠席の場合は、授業進行を妨げないタイミングで理由等を連絡すること。 講義中に学生の進捗状況を確認できるモニタ監視ができる教育支援システムを使用している。</p>		
【備考】		
<p>質問・相談は授業前後の教室または講師控え室及びメール(motoi.m@junshin-c.ac.jp)にて受け付けます。</p>		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション コンピュータ基本操作	<p><学習内容>パソコンの起動、ログインからログアウト、電源シャットダウン（終了）まで。現状スキルアンケートの実施。学内LAN設定。自身の学内情報：学籍番号やパスワードの確認。 <事前学習>シラバス確認。教科書pp.10-17に目を通す。 <事後学習>講義内容を復習</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間</p>
2	印刷・レイアウト、ファイルのやり取り	<p><学習内容>ポートフォリオ作成。 ファイルの保存方法・プリンターの使い方。 USBメモリや外部ストレージ、クラウド、オンラインストレージなどの活用法について。オンラインストレージ（OneDrive）を用いたデータの共有方法。 <事前学習>自身の学内情報持参 <事後学習>パソコンのデータの保存先を理解する。</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間</p>
3	連絡ツール（メール・Teams） 文書作成の基本	<p><学習内容>学内PC Office365 Outlook・Teamsの設定。 メールの仕組みを学ぶ。課題メール送信（メールの送受信）。Wordでの文書作成の基本（テンプレートから送付状を作成）。 <事前学習>自分の学内メールアドレス（パスワード等）を確認。教科書pp.18-36を読む。 <事後学習>最初は資料を見ながら、後に見ずにメールを送受信できるように復習すること。</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間</p>
4	SNS利用上の注意およびICTセキュリティ	<p><学習内容>ネットリスクとSNS危機管理。 文字入力（基本操作）とデータの保存。 知的財産権・情報倫理について。 <事前学習>教科書pp.8-9を読む。 <事後学習>ミニテストの回答見直し、復習。</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間</p>
5	ネットを活用して調べる（ICT機器の活用）	<p><学習内容>インターネット（ネットワーク）の仕組み。 ホームページの閲覧方法、学術情報の活用方法について。 ネット上の危機管理と、情報リテラシーについて。 <事前学習>教科書pp.4-5を読み、自身で行っているセキュリティ対策を考えておく <事後学習>ミニテストの回答見直し、復習</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間</p>
6	文書整形 1	<p><学習内容>メモ帳を利用したテキスト形式で文字入力。 Microsoft Officeソフト Word（文章作成ソフト）基礎。 文字入力、コピーペースト、均等割り付け、タブ設定など。 <事前学習>教科書pp.36-38,50-59を読む。 <事後学習>文字の入力（ローマ字など）や文字切り替え、キーボード操作の復習・練習。</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間</p>
7	グラフィックス- 情報メディア・画像加工について	<p><学習内容>パソコンの画像について（種類やファイル形式）。 パソコンのデータを学ぶ（容量や拡張子など）。 画像のサイズ変更、用途により画像の種類（形式）を変更（比較）する。 <事前学習>パソコンのデータファイルの見方（プロパティ）を調べておく。 <事後学習>ミニテストの回答見直し、復習。</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間</p>

8	文書整形 2 (表や他ソフトとの連携)	<p><学習内容>Wordへのテキストボックス、表組み、罫線、簡単な計算表によるレイアウト作業 (画像・テキストを配置)。ショートカットキーについて。</p> <p><事前学習>教科書pp.39-49を読む。</p> <p><事後学習>これまでの課題を、自分一人で作業できるように練習しておく。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
9	文書整形 3 (画像を組み合わせる)	<p><学習内容>Wordへの画像 (写真・イラスト) の差し込み。作図、飾り、回り込み→印刷し提出、データ提出まで。ショートカットキーを習得。</p> <p><事前学習>教科書pp.60-71を読む。</p> <p><事後学習>データを保存し、指定された方法で提出すること。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
10	データ処理 1	<p><学習内容>Microsoft Officeソフト Excel (表計算ソフト) 基礎。オートフィル、数式のコピー、表示形式について。</p> <p><事前学習>教科書pp.88-121を読む</p> <p><事後学習>授業中要点のExcelの基本的な操作を再度自分で復習しておく</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
11	データ処理 2	<p><学習内容>Excelを利用し表の作成、簡単なレイアウト作業。関数を活用した平均値などの算出方法。実習応用で名簿や、栄養管理票、統計表などを作成。</p> <p><事前学習>教科書pp.131-147を読む</p> <p><事後学習>本日の講義中に指定した課題を自分だけで出来るように復習する</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
12	グラフの活用	<p><学習内容>Excelグラフの作成。円グラフ、縦棒・横棒グラフ、行・列の切り替え、表示形式の変更。グラフなどを追加し、視覚的にわかりやすい表を作成する。</p> <p><事前学習>教科書pp.148-159を読む。</p> <p><事後学習>本日の講義中に指定した課題を自分だけで出来るように復習する。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
13	Excel課題作成	<p><学習内容>Excelを使用した総合実習。データ作成、Wordとの連携、データベース機能の活用。</p> <p><事前学習>Excelの立ち上げ方から、保存したデータの開き方、前回までの作業を復習しておくこと</p> <p><事後学習>これまでの講義中に指定した課題を自分だけで出来るように復習する。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
14	プレゼンテーション (PowerPoint)	<p><学習内容>Microsoft Officeソフト PowerPoint (プレゼンテーションソフト) の使用方法。文字や写真、イラスト、図の配置。課題に沿ったプレゼンテーションを作成する。</p> <p><事前学習>教科書pp.188-231を読む。</p> <p><事後学習>本日の講義中に指定した課題作成をすすめる。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
15	全体のまとめ	<p><学習内容>総合実習。WordやPowerPointへのExcel表データの組み込みなど。</p> <p><事前学習>第14回で指定した課題の提出を完了する。</p> <p><事後学習>これまでの課題で苦手なもの、十分に理解できていないものについて練習・復習し、適宜質問する。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
食にかかわる化学	都築 廣久	1	前期	講義	必修	2
	担当形態	単独		ナンバリング	FN1105	
	担当教員	都築 廣久				
【キーワード】	【概要】					
1 原子	化学は、様々な物質の構造・性質、物質相互の反応を研究する自然科学の一つの分野で、物質が何から、どのような構造で出来ていて、どのような特徴や性質を持っているか、さらにはこれらの物質の相互作用や反応を通してどのように物質に変化するかを学ぶ学問である。本講義では、今後栄養士の専門分野を学んでいく中で必要な化学の基礎をしっかりと身につけるとともに、特に食品や栄養に関する分野で役立つ知識について解説する。					
2 分子						
3 電子						
4 化学結合						
5 化合物						
【到達目標】						
1. 化学物質の構成（原子構造、元素の周期表、化学結合）を説明することができる。						
2. 化学物質の量的関係（原子量、分子量、モル、濃度）について説明することができる。						
3. 食品に含まれる身近な化学物質の種類、特徴、働きについて説明することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。						
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験			受講態度		合計
評価割合（％）	80			20		100
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
試験終了後、模範解答を返却するので確認すること。						
【教科書】						
『ていねいな化学』白戸 亮吉、小川 由香里、鈴木 研太著 羊土社						
【参考書・参考資料等】						
『楽しみながら分かるようになる化学』吉野 公昭著 理工図書						
『化学の基礎』中川 徹夫著 化学同人						
【関連科目】						
「基礎栄養学」「応用栄養学」「食品学総論」「食品学各論」「生化学Ⅰ」「生化学Ⅱ」						
【受講心得】						
日頃から食品の化学成分に関心をもつこと。						

【備考】		
卒業必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1		<p><学習内容>初回の授業であるため、化学の基本である「物質は何からできているか」（原子と元素、人体を構成する元素、人体を構成する化合物）を中心に説明する。</p> <p><事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）と教科書（教科書p12～p17）に目を通しておくこと。</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
2		<p><学習内容>原子の構造（原子核、陽子、中性子、電子）、原子番号、質量数、電子配置、周期表、族と周期、典型元素、遷移元素などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p20～p29)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
3		<p><学習内容>イオン同士の結びつき、イオン結合、原子間の電子の受け渡し、イオン結晶などを中心に、イオン結合のできている物質などを中心に説明する。<事前学習>教科書の該当するページ(p34～p37)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
4		<p><学習内容>共有結合、電気陰性度、極性、分子間力、水素結合、ファンデルワールス力、分子結晶、共有結合の結晶などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p40～p49)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
5		<p><学習内容>金属同士の結びつき、金属結晶内の価電子（自由電子）、金属結合、金属結晶、化学結合の種類、構成元素、構成粒子、化学式、物質例などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p53～p55)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
6		<p><学習内容>原子の質量、相対質量（相対原子質量）、絶対質量、原子量の求め方、分子量と式量が示す内容、式量の求め方、などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p58～p61)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
7		<p><学習内容>物質質量、モル質量、アボガドロの法則、密度、溶媒、溶質、溶液、質量パーセント濃度、モル濃度、化学反応式などを中心に説明する。<事前学習>教科書の該当するページ(p64～p71)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。<事後学習>教科書の該当する当ページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
8		<p><学習内容>酸と塩基の定義、酸と塩基の価数、酸・塩基の電離、水の電離、酸性・中性・アルカリ性、pH（水素イオン指数）、中和反応、中和滴定などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p77～p88)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>

9	酸と塩基、酸化還元反応 (2) 酸化還元反応	<p><学習内容>酸化と還元、3つの定義、酸化数とその求め方、酸化剤・還元剤、金属のイオン化傾向、金属の溶解、さびなどを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p92～p100)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
10	酵素反応と酸塩基平衡 (1) 酵素反応	<p><学習内容>化学反応による熱の出入り、活性化エネルギー、密度・温度・圧力と反応速度、酵素の役割、酵素反応、基質特異性、酵素活性、補因子などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p105～p111)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
11	酵素反応と酸塩基平衡 (2) 体液の酸塩基平衡	<p><学習内容>化学反応の方向性(可逆反応、化学平衡、不可逆反応)平衡状態、pHの働きをよわらげる働き(緩衝作用)などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p114～p120)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
12	生体を構成する物質 (1) 有機化合物	<p><学習内容>体と有機化合物、炭化水素の分類(鎖状・環状、鎖式炭化水素、環式炭化水素)、ベンゼン環、官能基による分類、あらかし方などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p123～p129)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
13	生体を構成する物質 (2) 糖質	<p><学習内容>エネルギー源、単糖(構造異性体、立体異性体)、二糖(マルトース、スクロース)、多糖(デンプン、グリコーゲン)の構造と性質などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p132～p145)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
14	生体を構成する物質 (3) 脂質	<p><学習内容>脂質、脂肪酸(分類、n-6(ω6)系とn-3(ω3)系、必須脂肪酸、脂質の種類(単純脂質、複合脂質)、リポタンパク質(種類、運搬)などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p148～p156)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
15	生体を構成する物質 (4) タンパク質	<p><学習内容>アミノ酸(分類、鏡像異性体、性質、等電点)、タンパク質(ペプチド結合、ペプチド、ポリペプチド鎖)、四次までの立体構造などを中心に説明する。</p> <p><事前学習>教科書の該当するページ(p159～p172)を読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> <p><事後学習>教科書の該当するページで学習した専門用語をまとめ、練習問題を解答すること。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
16	試験	

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
世界の食文化	三浦 裕子	1	通年	講義	選択	2
	担当形態	単独		ナンバリング		FN1106
	担当教員	三浦 裕子				
【キーワード】	【概要】					
1 歴史	調理学で学ぶ料理や菓子、及び現代の日本で親しまれている料理や菓子を手がかりに、食文化を学ぶ入門講座。食が歴史や風土、及び社会的な背景によって形作られていることを理解し、調理技術や栄養面とは違う視座から食を考える。					
2 風土						
3 調理法						
4 味覚						
5 境界						
【到達目標】	1. 和食の成り立ちを理解できる。 2. フランス、イタリアを中心とした欧風料理、及び中国料理とエスニック料理の概要を理解できる。 3. 試食、そのレポートを通して、自分の言葉で料理の構成や味わいを表現することができる。					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。						
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。						○
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	試験	レポート	受講態度	合計		
評価割合 (%)	50%	30%	20%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
レポートで提起された問題を講義で反映させ、皆で議論する。レポートは返却する。						
【教科書】						
『和食手帖』 思文閣出版・『食の世界史』 南直人、昭和堂						
【参考書・参考資料等】						
『先史から現代まで 食事の歴史』 東洋書林						

【関連科目】		
「調理学」		
【受講心得】		
授業は問題提起をしながら双方向であることを心がける。積極的に自分の意見を述べること。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	食文化・はじめに、及び食意識のレポート	<p><学習内容>食を歴史、風土、社会的な背景から捉えるという食文化のガイダンス。食意識のアンケート実施。 <事前学習>出身地の郷土料理を調べておく。 <事後学習>知らなかった郷土料理を調べる。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
2	「おいしい」「好き」だけではない食べ物の捉え方	<p><学習内容>博多の伝統菓子「鶏卵素麺」を試食し、味覚の背景にある食べ物の意味を考える。 <事前学習>江戸時代の年代を確認しておく。 <事後学習>砂糖の歴史を調べる。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
3	和食の歴史・16世紀まで	<p><学習内容>16世紀までの和食の歴史の概要を学ぶ。 <事前学習>『和食手帳』7～11ページを読んでおく。 <事後学習>『和食手帳』を読み直す。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
4	和食の歴史・江戸時代の和食の成立を中心に	<p><学習内容>和食の成立期を学ぶ。上生菓子と大福を試食。レポート。 <事前学習>本膳料理について調べておく。 <事後学習>一汁三菜のあり方を確認する。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
5	和食の捉え方・食材からのアプローチ	<p><学習内容>和食を形作る食材について考える。 <事前学習>一週間で和食を何回食べたか記録する。 <事後学習>発酵食品について調べる。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
6	弁当から捉える和食	<p><学習内容>松花堂弁当から和食を考える。松花堂弁当の試食とレポート。 <事前学習>弁当の歴史を調べる。 <事後学習>松花堂弁当の意味を確認する。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
7	明治以降の和食	<p><学習内容>明治以降の和食を考える。 <事前学習>和食化した洋食について調べておく。 <事後学習>和食化した洋食を確認する。</p> <p>(事前学習) 0 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>

8	和食の多様化について	<p><学習内容>現代の和食について考える。カステラの試食とレポート。 <事前学習>和食と中国料理の調理法の違いを調べておく。 <事後学習>和食と洋食の調理法の違いを考える。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
9	ヨーロッパの食の歴史の源泉	<p><学習内容>ヨーロッパの食の源泉を考える。栗のお菓子を試食。 <事前学習>プリントの米と麦の項を読んでおく。 <事後学習>ご飯とパンの製法の違いについて考える。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
10	ヨーロッパの食の歴史・15世紀まで	<p><学習内容>中世までのヨーロッパの食のあり方を大まかに捉える。 <事前学習>教科書99～109ページを読んでおく。 <事後学習>気候変動と食の関係を考えてみる。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
11	ヨーロッパの食の歴史・コロンブスの交換について	<p><学習内容>16世紀のヨーロッパの食の転換点を解説。最中とマドレーヌ試食。 <事前学習>コロンブスについて調べておく。 <事後学習>教科書169～184ページを再読する。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
12	ヨーロッパの食・17世紀以降のフランス料理の影響	<p><学習内容>17世紀半以降のフランス料理について <事前学習>フランス料理について調べておく。 <事後学習>教科書111～125を再読する。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
13	食の工業化について①	<p><学習内容>近代以降の食の工業化についての解説。ディーン&デルカ(予定)のランチボックスを試食。 <事前学習>イタリア料理について調べておく。 <事後学習>フランス料理とイタリア料理について考えてみる。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
14	食の工業化について②	<p><学習内容>19世紀以降の社会の変化と食の関係について。 <事前学習>コーヒー、紅茶について調べておく。 <事後学習>周りにいる40代以上の人に19歳の時に好きだった食べ物を聞く。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
15	食文化のまとめ	<p><学習内容>SDG'sやエシカルの視点からこれからの食を考える。パネットーネを試食。 <事前学習>SDG'sの項目を読んでおく。 <事後学習>新しい食の動きを考える。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
16	試験	

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
英語コミュニケーション	ストイコビッチ ボジダ	1	前期	演習	選択	2
	担当形態	単独	ナンバリング		FN1107	
	担当教員	ストイコビッチ ボジダ				
【キーワード】	【概要】					
1 英語で考える	積極的にクラスアクティビティに参加し、簡単な英会話から始めることにより、コミュニケーションスキルの向上を目指します。あなたにとって興味のある分野について、相手に英語で伝えることができれば、世界が広がります。さあ、楽しみながら学びましょう。					
2 英語で話す						
3 新しく習った単語を使って文章を書く						
4 発音を意識する						
5 間違いを恐れない						
【到達目標】						
1. 英語でのコミュニケーションを楽しむことができる。						
2. 英語に自信を持つことができる。						
3. 英語で単純な会話ができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。						
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。						
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	受講態度等		定期試験			合計
評価割合 (%)	20		80			100
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
試験後に解答の解説をする。						
【教科書】						
制作した教材を使用						
【参考書・参考資料等】						
授業内で配布されるプリント等						
【関連科目】						
【受講心得】						
授業内においては、常に英語で話すこと。日本語は許可した場合のみとする。失敗を恐れず、「失敗は成功のもと」という気持ちを持って臨むこと。						
【備考】						
卒業選択必修						

【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 自己紹介（お互いを知る） Getting to know each other		<学習内容> ・自己紹介 ・相手の自己紹介に対する返事 ・クラスで役立つフレーズ（便利な言い回し） <事前学習>シラバスを読んでくる。 <事後学習>分からない言葉があれば辞書で調べる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
2 家族について Talking about FAMILY		<学習内容> ・家族や親せきの紹介の仕方 ・家系図の作成 <事前学習>前回習った所を見直す。 <事後学習>分からない言葉があれば辞書で調べる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
3 動詞の働きについて WORK ACTIVITIES		<学習内容> ・現在完了や単純過去時制について ・can and can't できる・できないなどの動詞の使い方 ・自分の経験について語る <事前学習>前回習った所を見直す。 <事後学習>分からない言葉があれば辞書で調べる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
4 からだについて Talking about BODY		<学習内容> ・からだの部位 ・病気と健康について ・健康である為のアドバイス（伝え方） <事前学習>前回習った所を見直す。 <事後学習>分からない言葉があれば辞書で調べる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
5 スポーツについて Talking about SPORTS		<学習内容> ・道具を用いてのスポーツ種目の説明 ・スポーツの説明 ・運動の能力 <事前学習>前回習った所を見直す。 <事後学習>分からない言葉があれば辞書で調べる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
6 動物について（肉・魚） Talking about ANIMALS (MEAT and FISH)		<学習内容> ・海や牧場、野生動物の名前 ・比較級と最上級 ・形容 <事前学習>前回習った所を見直す。 <事後学習>分からない言葉があれば辞書で調べる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
7 果物と野菜について Talking about FRUITS and VEGETABLES		<学習内容> ・一般的な果物と野菜の名前 ・原産地について ・ショッピングリストの作成 <事前学習>前回習った所を見直す。 <事後学習>分からない言葉があれば辞書で調べる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
8 食べ物・飲み物のメニュー、注文の仕方 Talking about FOODS and DRINKS. HOW to ORDER		<学習内容> ・一般的な食べ物と飲み物 ・好きな食べ物・飲み物 ・ファーストフード店（レストラン）での注文の仕方 <事前学習>前回習った所を見直す。 <事後学習>分からない言葉があれば辞書で調べる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
9 道具、調理方法、マナー THE EQUIPMENT COOKING METHODS TABLE MANNERS		<学習内容> ・食器などの道具について ・調理方法 ・テーブルマナー <事前学習>前回習った所を見直す。 <事後学習>分からない言葉があれば辞書で調べる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間

1 0	数字・お支払いについて Talking about NUMBERS. How to PAY.	<学習内容> ・序数や基数についての確認 ・電話番号（緊急時等の連絡先）や住所の伝え方、聞き方、確認の仕方 ・お支払いの仕方 <事前学習> 前回習った所を見直す。 <事後学習> 分からない言葉があれば辞書で調べる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
1 1	カレンダーについて Talking about the CALENDAR	<学習内容> ・月と曜日 ・大事な行事を共有（話し合い） ・世界の様々な一年の行事 <事前学習> 前回習った所を見直す。 <事後学習> 分からない言葉があれば辞書で調べる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
1 2	時間について、予約（キャンセル）の仕方 Talking about TIME. Talking RESERVATIONS.	<学習内容> ・時間の聞き方、答え方 ・日常生活の説明 ・何かに対する頻度の度合い ・予約（キャンセル）の仕方 <事前学習> 前回習った所を見直す。 <事後学習> 分からない言葉があれば辞書で調べる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
1 3	世界各国について AROUND THE WORLD（世界一周）	<学習内容> ・国籍や言語 ・世界遺産 <事前学習> 前回習った所を見直す。 <事後学習> 分からない言葉があれば辞書で調べる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
1 4	街の風景 AROUND THE TOWN	<学習内容> ・道のたずね方 ・案内の仕方（徒歩の場合） <事前学習> 前回習った所を見直す。 <事後学習> 分からない言葉があれば辞書で調べる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
1 5	最終準備と課題発表 Final Preparation & Project Presentation	<学習内容> レビューと統合 <事前学習> 前回習った所を見直す。 <事後学習> 分からない言葉があれば辞書で調べる。 （事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間
1 6	Final Exam	

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
外国語（ハングル）		中村 智子		1	前期	演習	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング		FN1108		
		担当教員	中村 智子					
【キーワード】		【概要】						
1	韓国	日本から一番近い国、韓国。そして日本語に一番近いことばがハングルである。はじめてハングル（「偉大なる文字」という意味）を学ぶ学生を対象に文字の読み方や発音を覚えながら基本的な文法事項を理解する。続けてハングルで日常的に用いられる挨拶や簡単なやりとり、自己紹介ができるように身に付ける。さらに語学を通して韓国の社会や歴史、食を含む文化など取り上げ、映像資料を交えながら異文化理解を目指す。また最近の韓国の現状について学ぶ。						
2	ハングルの理解							
3	自己紹介							
4	日常会話							
5	異文化理解							
【到達目標】		1. 自己紹介を含む日常の挨拶、簡単な意思疎通ができる。 2. 授業で学んだ単語や文法を使って、書かれた文書を理解し、正しく読んだり書けたりすることができる。 3. 韓国の社会や歴史、文化について理解し説明できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。								
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。								
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	定期試験		小テスト・課題		受講態度		合計	
評価割合（％）	40		40		20		100	
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E		F	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0		0	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】								
授業内で小テストの解説と課題の説明をする。								
【教科書】								
『基礎から学ぶ韓国語講座 入門』 木内 明（著）（株）国書刊行会								
【参考書・参考資料等】								
『韓日・日韓辞書』								
教科書を中心に進めるが理解力向上の為に適宜 補充資料を用いることがある。								
【関連科目】								

【受講心得】		
韓国語と韓国の文化に関心を持っていることがのぞましい。また発音練習や会話文などの実践を伴う際は、しっかりと声に出し、積極的に取り組むことがのぞましい。授業の進度に応じて変更が出る可能性もある。		
【備考】		
卒業選択必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 第1課 基本表現（あいさつ）を学ぼう		【学習内容】 ①オリエンテーション②ハングルの概要について学ぶ。 ③簡単な挨拶表現を学ぶ。④韓国の手遊びを学ぶ。 【事前学習】シラバスに目を通しておく。 【事後学習】教科書添付の音声を活用しながら復習する。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
2 第2課 母音を学ぼう		【学習内容】 ①ハングルには10の基本の母音字があることを理解する。実際に発音し、さらに書いて学ぶ。②韓国文化（料理編：食事の取り合わせや五色の哲学）について学ぶ。 【事前学習】教科書(P18～23)を参考に目を通しておく。 【事後学習】教科書添付の音声を活用しながら復習する。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
3 第3課 子音を学ぼう①		【学習内容】 ①ハングルには19の子音字があり、その子音字を母音字と組み合わせて文字を作ること学ぶ。②韓国文化（料理編：基本の食材）について学ぶ。 【事前学習】教科書(P24～29)を参考に目を通しておく。 【事後学習】教科書添付の音声を活用しながら復習する。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
4 第4課 子音を学ぼう②（激音について）		【学習内容】 ①子音には息を強く吐く音（激音）が5つあることを学ぶ。実際に音声を聴き、発音ができるよう繰り返し練習し、身につける。 ②韓国文化（料理編：普段の食事）について学ぶ。 【事前学習】教科書(P30～35)を参考に目を通しておく。 【事後学習】教科書添付の音声を活用しながら復習する。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
5 第4課 子音を学ぼう②（濃音について）		【学習内容】 ①子音の激音について復習し、子音には息をつまらせる音（濃音）が5つあることを学ぶ。②韓国文化（料理編：発酵食品）について学ぶ。 【事前学習】教科書(P30～35)を参考に目を通しておく。 【事後学習】教科書添付の音声を活用しながら復習する。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
6 第5課 合体する母音を学ぼう		【学習内容】 ①複数の母音字が組み合わさった母音字が11あることを学ぶ。実際に音声を聴き、発音ができるよう繰り返し練習し身につける。②韓国文化（料理編：お祝いの席や特別な日の料理）について学ぶ。 【事前学習】教科書(P36～41)を参考に目を通しておく。 【事後学習】教科書添付の音声を活用しながら復習する。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
7 第6課 パッチムを学ぼう①		【学習内容】 ①文字の下の部分にある子音字を「パッチム」と言い、計7種類の音を学ぶ。 ②韓国文化（料理編：テーマに沿った料理）について学ぶ。 【事前学習】教科書(P42～49)を参考に目を通しておく。 【事後学習】教科書添付の音声を活用しながら復習する。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間

8	第6課 パッチムを学ぼう②	【学習内容】 ①前回に引き続きパッチムについて復習し、補助教材を使用しながら理解を深める。②韓国文化（料理編：お菓子と飲み物）について学ぶ。 【事前学習】教科書(P42～49)を参考に目を通しておく。 【事後学習】教科書添付の音声を活用しながら復習する。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
9	第7課 私は○○○です。	【学習内容】 ①本文の会話内容を理解し、2人組になって音読練習し身につける。「～は」「～です」の使い方を学ぶ。 ②韓国文化（旅行編①）について学ぶ。 【事前学習】教科書(P50～57)を参考に目を通しておく。 【事後学習】教科書添付の音声を活用しながら復習する。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
10	第8課 今日時間がありますか	【学習内容】 ①第7課までの小テストを行う。②本文の会話内容を理解し、実際に声に出して繰り返し練習し身につける。「～が」「います/あります」「いません/ありません」の使い方を学ぶ。③韓国文化（旅行編②）について学ぶ。 【事前学習】教科書(P58～65)を参考に目を通しておく。 【事後学習】教科書添付の音声を活用しながら復習する。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
11	第9課 どうやって勉強していますか	【学習内容】 ①本文の会話内容を理解し、実際に音読練習を繰り返し取り組み、身につける。②「します」「否定し～ではない/～(し)ない」の使い方を学ぶ。③韓国文化（旅行編③）について学ぶ。 【事前学習】教科書(P66～73)を参考に目を通しておく。 【事後学習】教科書添付の音声を活用しながら復習する。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
12	第10課 いくらですか	【学習内容】 ①本文の会話内容を理解し、実際に音読練習を繰り返し身につける。 ②「漢数詞」と「この/その/あの」の使い方を学ぶ。 ③韓国文化（メディア編①）について学ぶ。 【事前学習】教科書(P74～83)を参考に目を通しておく。 【事後学習】教科書添付の音声を活用しながら復習する。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
13	第11課 何をよく食べますか	【学習内容】 ①本文の会話内容を理解し、実際に音読の反復練習に取り組み身につける。②動詞や形容詞「です/ます」の形を学ぶ。③韓国文化（メディア編②）について学ぶ。 【事前学習】教科書(P84～91)を参考に目を通しておく。 【事後学習】教科書添付の音声を活用しながら復習する。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
14	第12課 ちょっと待ってください	【学習内容】 ①本文の会話内容を理解し、実際に音読の反復練習に取り組み身につける。②不可能を表す「～できません」の形を学ぶ。③韓国文化（メディア編③）について学ぶ。 【事前学習】教科書(P92～99)を参考に目を通しておく。 【事後学習】教科書添付の音声を活用しながら復習する。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
15	総復習	【学習内容】 ①主に第7課から用いられた基本的な文法について再確認し、まとめ内容を深く理解する。②試験内容を確認する。③韓国文化（社会編）について学ぶ。 【事前学習】教科書(P50～99)を参考に目を通しておく。 【事後学習】来週の試験に備えて復習しておく。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
16	定期試験	

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
外国語（日本語）	平嶋 一臣	1	前期	演習	選択	2
	担当形態	単独		ナンバリング	FN1109	
	担当教員	平嶋 一臣				
【キーワード】	【概要】					
1 言葉	日本語の「話し言葉」と「書き言葉」を明確に区別し、文法的に正しく美しい日本語の習得を目的とする。また、日本語作文における、文型・句読点・段落等の構成について理解し、文章作成の基礎・基本を学ぶ。					
2 読む						
3 書く						
4 聴く						
5 話す						
【到達目標】	1. 日本語の基本的な用語を使い、自分の伝えたいことを文章化することができる。 2. 「読む」「書く」「聴く」「話す」の基本を総合的に向上させ、正しい日本語で基本的な文章を書くことができる。 3. 文章作成の基本を踏まえ、1200字程度の論説文を書くことができる。					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。						
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。						
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	毎回の課題提出と内容	受講態度	合計		
評価割合 (%)	40	30	30	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	毎時間課題レポートを提出する。次週の初めに添削した課題を返却し、その反省点に立ち本時のスタートとする。					
【教科書】	『留学生の為の論理的な文章の書き方』 二通信子・佐藤不二子 平嶋 一臣 著・編『講義資料』より 必要に応じてプリント・配布する。					
【参考書・参考資料等】	授業中に指示する					
【関連科目】	「文章表現法」					

【受講心得】		
疑問点は直ちにその場で質問し解決できるように努めること。また、積極的に授業に参加し、課題等の提出期限を守ること。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・〈事後学習〉（学習時間）
1	ひらがなの成り立ち、文章の中での使われ方を知る	<p>〈学習内容〉ひらがな・カタカナの成り立ちを、漢字との関係から学び、文章の中での使い方の幅を広げる。</p> <p>〈事前学習〉シラバスや授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。</p> <p>〈事後学習〉授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
2	日本語の特質①	<p>〈学習内容〉主語と述語を中心に文章の様々な組み立て方を学び、実際に身近な出来事をテーマに文章化する。</p> <p>〈事前学習〉授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。</p> <p>〈事後学習〉授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
3	日本語の特質②	<p>〈学習内容〉形容詞・形容動詞・助動詞・助詞の使われ方を、様々な文例集から学び、最近の出来事をテーマに文章化する。</p> <p>〈事前学習〉授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。</p> <p>〈事後学習〉授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
4	日本文化と言語や文章の成り立ち①	<p>〈学習内容〉日本独自の言語表現である和語（大和言葉）の様々な使われ方を知る。</p> <p>〈事前学習〉授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。</p> <p>〈事後学習〉授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
5	日本文化と言語や文章の成り立ち②	<p>〈学習内容、実際の生活を想定し、和語（大和言葉）の正しい使い方を学ぶ。</p> <p>〈事前学習〉授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。</p> <p>〈事後学習〉授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
6	新聞のコラムを読む①原稿を書く際の約束	<p>〈学習内容〉子ども新聞のコラムを教材に、日本語の組立て方や原稿を書く際の注意点を学ぶ。</p> <p>〈事前学習〉授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。</p> <p>〈事後学習〉授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
7	新聞のコラムを読む②組み立て方	<p>〈学習内容〉子ども新聞のコラムを教材に、日本語の組立て方や分かり易く伝えるための段落について学ぶ。</p> <p>〈事前学習〉授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。</p> <p>〈事後学習〉授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>

8	コラムや社説を要約する	<p><学習内容>新聞の社説やコラムを教材に、筆者の伝えたいことや要点をまとめる。</p> <p><事前学習>授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習>授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
9	レポートを書く (事実・参考意見・資料)	<p><学習内容>最近の出来事を取り上げ、自分としての意見を主張する文章を書く。</p> <p><事前学習>授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習>授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
10	レポートを再考する (文型、句読点、段落ほか)	<p><学習内容>前時で書き上げた文章を、グループディスカッションし、分かり易く主張がはっきりした文章に練り上げる。</p> <p><事前学習>授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習>授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
11	話し言葉と書き言葉について①	<p><学習内容>「話し言葉」と「書き言葉」の違いを具体例を基に学び、その使い分けの大切さを知る。</p> <p><事前学習>授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習>授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
12	話し言葉と書き言葉について②	<p><学習内容>これまで自分が書いた文章の中で、「話し言葉」で書いている例を挙げ、これを正しい文章に書き直す。</p> <p><事前学習>授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習>授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
13	コラムや社説に対して自分の考えをまとめる①	<p><学習内容>再度、新聞の社説やコラムを取り上げ、これについての自分の意見をまとめ文章化する。</p> <p><事前学習>授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習>授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
14	コラムや社説に対して自分の考えをまとめる②	<p><学習内容>再度、新聞の社説やコラムを取り上げ、自分の意見をまとめグループ間で発表し批評する。</p> <p><事前学習>授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習>授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
15	これまでの学びについて要点を絞り発表する	<p><学習内容>これまでの学びの集大成として、『日本語を学んで』をテーマに1200字にまとめ発表する。</p> <p><事前学習>授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習>授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
16	試験	15回の学びの成果を客観視するための試験

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数	
インターンシップ	津村 有紀	1	通年	実習	選択	2	
	担当形態	複数	ナンバリング		FN1110		
	担当教員	津村 有紀、宅間 真佐代					
【キーワード】	【概要】						
1 職業人	インターンシップは、自分の専門、将来のキャリアに関連した施設や企業等で就業体験を行うことである。就業体験を通じて職業人・社会人として何が必要かを知り、自分の将来の方向性を明確に意識することを目的とする。受け入れ施設・企業等での就業体験と、学内での事前・事後の学習より構成される。						
2 就業体験							
3 社会人							
4 自己管理							
5 キャリア形成							
【到達目標】							
1. 将来の職業について関心を持ち、働くことの意味とイメージを持つことができる。							
2. 自己管理の重要性を理解し、社会人としてのマナーや責任感を身につけることができる。							
3. 仕事を円滑に進めるために必要なコミュニケーション能力を身につけることができる。							
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性	
【知識・理解・技能】							
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。							
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。						○	
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。						○	
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○	
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○	
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。							
【関心・意欲・態度】							
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○	
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						○	
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。						○	
【成績評価の方法】							
成績指標	実習施設からの評価		実習報告		受講態度等		合計
評価割合 (%)	60		30		10		100
【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
【評価内容】 (ループリック)							
評価項目	4	3	2	1			
事前指導	実習の目的および内容を全て適切に理解し、意欲的に取り組んでいる	実習の目的および内容をおおむね理解し、意欲的に取り組んでいる	実習の目的および内容を半分程度理解し、取り組んでいる	実習の目的および内容を理解し、ひとまず取り組んでいる			
実習レポート	全ての内容が適切に記載されている。	全ての内容がおおむね記載されている。	全ての内容が半分程度記載されている。	全ての内容がほとんど記載されていない。			
実習態度	適切かつ節度ある行動がとれている	適切かつ節度ある行動がおおむねとれている	適切かつ節度ある行動が半分程度とれている	適切かつ節度ある行動がとれていない			
事後報告	実習した内容について、適切に報告がなされている	実習した内容について、おおむね報告がなされている	実習した内容について、半分程度、報告がなされている	実習した内容について、ほとんど報告がなされていない			

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
返却した提出物等などについてよく確認し、必要があれば加筆・修正のうえ再提出すること。		
【教科書】		
適宜、資料を配布する。		
【参考書・参考資料等】		
実習先に応じて適宜、指示する。		
【関連科目】		
「ビジネスマナー」		
【受講心得】		
明確な目的と高い意欲を持っていること。アルバイト体験とは異なる「就業」の実習であることを理解し、責任を持って行動すること。		
【備考】		
インターンシップは、学内施設での就業体験を含む。		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション	宅間津村	<学習内容>学内で就業体験を行う企業の研究や研修中から研修終了後までの一連の流れを説明する。 <事前学習>施設の概要および実習内容等の基礎的知識を予習しておくこと。 <事後学習>実習に向けての内容の復習しておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
2 事前指導①		
3 事前指導②		
4	実習先の指導者	<学習内容>各企業および施設において、就業体験（実習）を行う。 <事前学習>実習施設での実習内容について予習しておくこと。 <事後学習>実習内容のまとめと復習をしておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
5		
6		
7		
8 実習（インターンシップ）		
9 ※就業体験は、各企業・施設の研修プログラムに沿って行う。		
10		
11		
12		
13		
14 事後指導	宅間津村	<学習内容>「就業体験」の事後指導を受け、報告会で自身の研修内容についての発表を行う。 <事前学習>研修した内容を整理し、研修日誌をまとめをしておくこと。 <事後学習>他者の発表内容なども参考に、自身が学んだことの復習をしておくこと。 （事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間
15 実習報告会		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
ビジネスマナー (食物栄養学科)	大石 紀子	1	前期	演習	選択	2
	担当形態	単独		ナンバリング	FN1111	
	担当教員	大石 紀子				
【キーワード】	【概要】					
1 コミュニケーション	1. 社会で必要とされる言葉づかいや立ち居振る舞いをはじめ、ビジネスマナー全般を座学だけでなく多くの演習をとおして習得することで、信頼される社会人となることを目指す。 また円滑な人間関係を築きあげ、仕事をしやすい環境を自らで作り上げることができることを学ぶ。 2. 就職活動に際して必要なマナーも習得する。					
2 言葉づかい						
3 応対						
4 電話応対						
5 文書作成						
【到達目標】						
1. 社会人として求められる心構えとビジネスマナーを理解することができる。						
2. 知識として習得したマナーを状況に応じて実践することができる。						
3. 他者への配慮を怠らず、良好な人間関係を構築することができる。						
						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。						
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。						
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験		受講態度			合計
評価割合 (%)	80		20			100
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
試験終了後は模範解答をもとに間違えた箇所を見直し、正しいマナーを理解する。						
【教科書】						
『よくわかる自信がつくビジネスマナー』（改訂3版）著作/制作富士通エフ・オー・エム株式会社						
【参考書・参考資料等】						
補足資料として適宜プリント配布						
【関連科目】						
【受講心得】						
授業中からマナーを意識し、社会人であるという心構えで受講して下さい。 講義中の演習は積極的に取り組みましょう。						

【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション	<p>【学習内容】 マナーを学ぶ意義について考えます。現段階で社会人基礎力の自己評価を行い、これからの授業における自分自身の課題（学びたいこと）を明確にします。 【事前学習】テキストP5～P6を読み、マナーの必要性を考える。 【事後学習】初回の授業を振り返り、身に付けるべき力は何かを自分の課題として考える。</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間</p>
2	身だしなみ・挨拶・立ち居振る舞い	<p>【学習内容】 人に与える第一印象というのはとても重要です。印象の良し悪しがもたらすメリット・デメリットを考えながら、具体的に好感度を与える挨拶や立ち居振る舞いを実践形式で体得します。 【事前学習】テキスト第1章P7～P22を読み、身だしなみについて知りたいこと（質問）を考えておく。 【事後学習】日常生活のなかで実践する。</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間</p>
3	言葉づかいと敬語の基礎	<p>【学習内容】 バイト敬語や不適切な言葉づかいなど日頃気が付かずによく使ってしまう不快感を与えてしまう言葉が多くあります。これらの間違った言葉づかいを理解して、適切な言葉づかいができるように学びます。 【事前学習】テキストP31～P35を読む。 【事後学習】日常生活の中で実践する。</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間</p>
4	敬語の正しい使い方（1）	<p>【学習内容】 敬語にはいくつかの種類があります。相手や状況に合わせて適切な言葉づかいができるように事例を用いながら基本を学びます。 【事前学習】テキストP36～P37を読む。 【事後学習】テキストP41に記入して復習。</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間</p>
5	敬語の正しい使い方（2）	<p>【学習内容】 基本編で学んだ内容を実際の様々なシーンで活用できるように実践形式で学びます。 【事前学習】テキストP42～P44を読む。 【事後学習】テキストP45を活用して復習。</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.2 時間</p>
6	報告・連絡・相談とアサーション	<p>【学習内容】上司や先輩から受けた指示の受け方や報告・連絡・相談の仕方についても社会人として受答えができるように学習します。 【事前学習】テキストP46～P48を読む。 【事後学習】テキストP51を活用して復習。</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.2 時間</p>

7	電話応対（1）	<p>【学習内容】 社内での電話の取り次ぎ方など対応のポイントを実践を交えて学びます。 【事前学習】テキストP85～P88を読み、実践問題の練習もしておく。 【事後学習】テキストP97実践問題を解く。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
8	電話応対（2）	<p>【学習内容】 相手に用件をわかりやすく伝える電話のかけ方を練習します。仕事においては伝言を依頼する場合もありますから、トラブルに繋がらないように正確に伝えるポイントも学びます。 【事前学習】テキストP89～91を読む。 【事後学習】テキストP101確認問題を解き復習をする。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
9	就職活動で必要な電話のマナー	<p>【学習内容】 就職活動において企業と電話でやりとりをする機会が多くなります。大切な事項を聞き逃さず、また自分の伝えたいことも失礼のない言葉づかいで話せるように事例を使いながら学びます。 【事前学習】就職活動における電話マナーについて質問したいことを考えておく。 【事後学習】自分用の就活電話スクリプトを作る。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
10	訪問のマナー	<p>【学習内容】 相手の会社への訪問時や来客時に必要なマナーを説明します。事前の準備や当日の心構え、応接室でのマナーなどを学びます。 【事前学習】テキストP61～P82を読んでおく。 【事後学習】テキストP83確認問題を解く。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
11	（文書作成）はがきの書き方	<p>【学習内容】 日々の業務の中では文書を作成することが多々あります。文書作成の基本をはがきの作成をとおして学びます。 【事前学習】配布される補足資料を読んでおく 【事後学習】授業内で作成するはがきの完成</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
12	（文書作成）ビジネス文書の書き方	<p>【学習内容】 前回の授業（はがき）で学んだことを基本に社内外で必要とされる文書作成を学び、実際に作成します。基本的な形式や表現を身に付けます。 【事前学習】テキストP148～P154を読んでおく。 【事後学習】文書の完成。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
13	メールの知識と書き方	<p>【学習内容】 メールは便利ですが小さなミス一つで周囲に多大な迷惑をかけてしまうこともあり、注意が必要です。ここでは書き方のポイントや基本的なマナーを学びます。 【事前学習】テキストP110～P112を読む。 【事後学習】テキストP121を解いて復習する。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>

1 4	就職活動に必要なメールの書き方	<p>【学習内容】 就職活動中に相手企業とメールのやりとりをする時の注意を説明し、具体的に作成します。</p> <p>【事前学習】短大で配布される資料の該当ページに目を通しておく</p> <p>【事後学習】実際に使えるように下書きを作る</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
1 5	面接のマナーと面接礼状	<p>【学習内容】 就職面接においてもマナーや印象は大切です。相手に好印象を与えるポイントを学び、また面接の礼状についても作成し活用実践で活用できるようにします。</p> <p>【事前学習】短大で配布される資料の該当ページに目を通しておく。</p> <p>【事後学習】面接礼状を完成させる。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
1 6	試験	<p>これまでの総括。学んだ内容がどのくらい習得できているかをテストする。</p>

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
純真ゼミナールⅠ	都築 廣久	1	前期	演習	必修	1
	担当形態	複数		ナンバリング	FN1112	
	担当教員	食物栄養学科教員全員、こども学科教員全員、外部講師				
【キーワード】	【概要】					
1 学園訓	<p>本学は、時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操をもって、社会、家庭に歓迎され、敬愛される良識ある人材を育成する事を目的として設立された。この設立趣旨を理解するためには、建学の精神の中身をお互いに共有することが重要である。そこで本演習では、本学がかかげる「気品」、「知性」、「奉仕」の建学の精神を具現化していくための諸テーマを中心にして、全人格形成の涵養を図ることを目標とする。</p>					
2 建学の精神						
3 気品						
4 知性						
5 奉仕						
【到達目標】	<p>1. テーブルマナーにより「気品」を醸成させていくことができる。 2. 有識者の講演の聴講などにより「知性」を練磨させていくことができる。 3. ボランティアの清掃活動への参加により「奉仕」の精神を高揚させていくことができる。</p>					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。						
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。						
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	課題・提出物		取り組み姿勢及び受講態度		合計	
評価割合 (%)	80		20		100	
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
取り組み姿勢と課題・提出物に関するコメントを返却する。						
【教科書】						
特に指定しない。適宜資料を配付する。						
【参考書・参考資料等】						
特に指定しない。						
【関連科目】						
「純真ゼミナールⅡ」						

【受講心得】		
主に班単位で受講するため、お互いに協力して、自ら積極的に活動に取り組むこと。成績評価の一環として合計3回のレポートの提出を課します。		
【備考】		
卒業必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	都築	<学習内容>本学園の学園訓、建学の精神である「気品」「知性」「奉仕」を紹介するとともに、学園を設立した福田昌子女史の想いについても触れる。 <事前学習>本学園の学園訓について調べておくこと。 <事後学習>学長講話の内容をレポートにをまとめて提出すること。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間
2	都築 豊辻 中村	<学習内容>純真学園・学園歌について、説明の後、実際に歌唱練習を行う。 <事前学習>学生便覧掲載の学園歌の歌詞を確認し、発声練習をしておくこと。 <事後学習>学園歌について、歌詞やメロディの復習をしておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
3	津村・ 就職係	<学習内容>キャリアガイダンスの第一回目であるため、就職活動の基本である「就職活動支援」と「労働法」を中心に説明する。 <事前学習>就職ガイドブックに目を通しておくこと。 <事後学習>就職活動の基本に関する概要を復習しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
4	都築	<学習内容>短大生に必要な時事問題も含めた一般常識問題に取り組む。 <事前学習>一般常識について調べておくこと。 <事後学習>当日取り組んだ問題を復習しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
5	都築	<学習内容>短大生に必要な時事問題も含めた一般常識問題に取り組む。 <事前学習>一般常識について調べておくこと。 <事後学習>当日取り組んだ問題を復習しておくこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
6	外部 講師	<学習内容>日本の演劇で、伝統芸能のひとつである歌舞伎について、事前に観劇マナーや演目の内容について学ぶ。 <事前学習>「歌舞伎」について調べておくこと。 <事後学習>観劇に向けて、事前講座の振り返りを行うこと。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
7	外部 講師	<学習内容>博多座で実際に歌舞伎の観劇 <事前学習>事前講座の内容を再度復習しておくこと。 <事後学習>歌舞伎観劇の内容をレポートにをまとめて提出すること。 (事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間

8	奉仕活動 ～清掃活動～	全教員	<p><学習内容>奉仕活動の一環として、西鉄大橋駅東口周辺を中心とした清掃活動を行う。</p> <p><事前学習>社会奉仕、勤労奉仕、無償奉仕、奉仕作業、ボランティアに関して調べておくこと。</p> <p><事後学習>奉仕活動（清掃活動）の意義を振り返ること。</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間</p>
9	アーティスティック 絵画レッスン	保坂	<p><学習内容>講師の美術活動よりお勧めのオリジナル絵画技法を体験する。創造の世界を楽しみながら拡張、個々の豊かな活動につなげる。</p> <p><事前学習>様々な分野のアートに触れておく。</p> <p><事後学習>受講したことを個々の活動にどう反映できるか考えてみる。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
10	ジェンダー（1）ジェンダー概念の変遷	石橋	<p><学習内容>女性の権利を拡張しようとするフェミニズム運動から、「ジェンダー」という言葉が「社会的、文化的な性」を表す言葉として使用され、今日にいたっています。この「ジェンダー」概念がどのようにして展開され、今日にいたっているかを概説します。</p> <p><事前学習>「ジェンダー」という言葉を調べ、「ジェンダー」について考えてくる。</p> <p><事後学習>授業で配付した資料を参考にジェンダーについて考える。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
11	ジェンダー（2）お姫様とジェンダー	石橋	<p><学習内容>お姫様（白雪姫、シンデレラ、眠り姫など）で描かれる女性たちは王子様との出会いによってハッピーエンドを迎えます。このような女性像に対してそれは文化的社会的につくられた見方だ（ジェンダー）という批判もあります。このジェンダー観について考えてみましょう。</p> <p><事前学習>白雪姫、シンデレラ、眠り姫の物語を読んで、そこで描かれる女性像について考えてくる。</p> <p><事後学習>授業で配付した資料を参考にジェンダーについて考える。</p> <p>（事前学習） 1 時間 （事後学習） 1 時間</p>
12	テーブルマナー～和食～	下村	<p><学習内容>お箸の正しい使い方や器の取り方、各種料理のいただき方などを説明する。</p> <p><事前学習>食事の際に必要なマナーについて考えておくこと。</p> <p><事後学習>学んだ作法を食事の際に活用しながら、基本的なマナーを身につけること。</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間</p>
13	テーブルマナー～洋食～	宅間	<p><学習内容>テーブルマナーとは何か、予約の仕方、服装、メニューの構成をはじめナフキン・カトラリーの扱い方をコース料理に沿って解説する。</p> <p><事前学習>授業の前に洋食のテーブルマナーについて調べておくこと。</p> <p><事後学習>日常の食事をおしてマナーが身につけられているか確認をすること。</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 1 時間</p>
14	護身術	左藤	<p><学習内容>護身術の心構え、身体運動の基本と重要性を学ぶ。身の回りで起こっている危険を覚悟し、それを回避、防御、撃退する手段とその結果に対する法的意義と適用について学ぶ。</p> <p><事前学習>ストレッチ、筋力トレーニング、ウォーキング、ジョギング等の身体運動に関する書籍、雑誌、インターネット情報などに目を通しておく。</p> <p><事後学習>学んだ身体運動や基礎トレーニングを普段の生活の中で実行する。</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間</p>
15	「学園訓」を表現しよう（1）	平嶋	<p><学習内容>学園訓「気品」「知性」「奉仕」に込められた思いを書表現する。</p> <p><事前学習>学園訓三語に込められた意味を自分なりに解釈説明できる。</p> <p><事後学習>自分の作品と友人の作品を比べ批評できる。</p> <p>（事前学習） 0.5 時間 （事後学習） 0.5 時間</p>

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
純真ゼミナールⅡ	都築 廣久	1	後期	演習	必修	1
	担当形態	複数	ナンバリング		FN1113	
	担当教員	食物栄養学科教員全員、こども学科教員全員、外部講師				
【キーワード】	【概要】					
1 学園訓	<p>本学は、時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操をもって、社会、家庭に歓迎され、敬愛される良識ある人材を育成する事を目的として設立された。この設立趣旨を理解するためには、建学の精神の中身をお互いに共有することが重要である。そこで本演習では、本学がかかげる「気品」、「知性」、「奉仕」の建学の精神を具現化していくための諸テーマを中心にして、全人格形成の涵養を図ることを目標とする。</p>					
2 建学の精神						
3 気品						
4 知性						
5 奉仕						
【到達目標】	<p>1. 茶道・着付により「気品」を醸成させていくことができる。 2. 有識者の講演の聴講などにより「知性」を練磨させていくことができる。 3. 学士基礎力講座により「知性」を練磨させていくことができる。</p>					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。						
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。						
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	課題・提出物		取り組み姿勢及び受講態度			合計
評価割合 (%)	80		20			100
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	<p>取り組み姿勢と課題・提出物に関するコメントを返却する。</p>					
【教科書】	<p>特に指定しない。適宜資料を配付する。</p>					
【参考書・参考資料等】	<p>特に指定しない。</p>					
【関連科目】	<p>「純真ゼミナールⅠ」「ビジネスマナー」</p>					

【受講心得】		
【備考】		
卒業必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	津村・外部講師	<学習内容>「自己分析を進める上のポイントについて」と題する外部講師による講和を聴く。 <事前学習>就職ガイドブックに目を通しておくこと。 <事後学習>自己分析の振り返りをする。
		(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
2	津村・外部講師	<学習内容>「就職活動開始に向けた心構え」と題する外部講師による講和を聴く。 <事前学習>就職ガイドブックに目を通しておくこと。 <事後学習>講演から学んだことを復習しておくこと。
		(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
3	都築	<学習内容>短大生に必要な時事問題も含めた一般常識問題に取り組む。 <事前学習>一般常識について調べておくこと。 <事後学習>当日取り組んだ問題を復習しておくこと。
		(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
4	都築	<学習内容>短大生に必要な時事問題も含めた一般常識問題に取り組む。 <事前学習>一般常識について調べておくこと。 <事後学習>当日取り組んだ問題を復習しておくこと。
		(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
5	外部講師	<学習内容>講演内容については調整中 <事前学習>調整中 <事後学習>調整中
		(事前学習) 時間 (事後学習) 時間
6	平嶋	<学習内容>学園訓「気品」「知性」「奉仕」に込められた思いを書表現する。 <事前学習>学園訓三語に込められた意味を自分なりに解釈説明できる。 <事後学習>自分の作品と友人の作品を比べ批評できる。
		(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間
7	津村・外部講師	<学習内容>「履歴書作成について」と題する外部講師による講和を聴くとともに、特に『学歴』『資格・免許』などを実際に作成する。 <事前学習>就職ガイドブックに目を通しておくこと。 <事後学習>履歴書を完成すること。
		(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間

8	世界の宗教： キリスト教、イスラム教、仏教	石橋	<p><学習内容>宗教の誕生と必要性について考え、世界宗教としてのキリスト教、イスラム教、そして仏教について考えます。これらの教えの始まりや内容について概説します。</p> <p><事前学習>キリスト教、イスラム教、仏教について調べてくる。</p> <p><事後学習>授業で配布した資料を参考にキリスト教、イスラム教、仏教について考える。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
9	職業倫理講座	石橋	<p><学習内容>職業人に求められる倫理について考えます。どんな職業に就くにする、正直さや誠実性、他者への敬意や守秘義務、順法精神などが求められます。これらのことを踏まえた職業人として人間形成をすることの大切さについて学びます。</p> <p><事前学習>職業倫理について調べてくる。</p> <p><事後学習>授業で配布した資料を参考に職業倫理について考える。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
10	履歴書作成 (1)	大石	<p><学習内容>就職活動に必要な履歴書の書き方 (基本) を学ぶ。</p> <p><事前学習>保有している資格の正式名称と取得時期について予め調べておく。</p> <p><事後学習>授業内で書けなかった箇所を2回目までに仕上げる。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 1 時間</p>
11	履歴書作成 (2)	大石	<p><学習内容>履歴書の中でも書くのが難しいと言われる「自己PR」と「志望動機」について説明し、作成する。</p> <p><事前学習>事前に行なわれる純真ゼミナール「自己分析」の資料を振り返り、自己の強みや個性について考えておく。</p> <p><事後学習>履歴書を完成させキャリアセンター・就職係に提出をする。</p> <p>(事前学習) 1 時間 (事後学習) 1 時間</p>
12	茶道	魚住	<p><学習内容>和室での礼法やマナーに則って、お客様をお招きして、おもてなしの心を感じ取る。</p> <p><事前学習>和室での歩き方などを調べておくこと。</p> <p><事後学習>ご挨拶等でのお辞儀の仕方など、学んだことを実践に移してみること。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
13	着付け	木村	<p><学習内容>浴衣の着方の学習、基本の帯結び、立ち居振る舞いについて学ぶ。</p> <p><事前学習>着物、浴衣の成り立ち、洋服との違いについて調べておくこと。</p> <p><事後学習>浴衣、帯のたたみ方、着付け用具の扱い方について復習しておくこと。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
14	キャリアガイダンス (4) ～外部講師講話～	津村・ 外部講師	<p><学習内容>「将来の夢を達成するために必要な事」と題する外部講師による講和を聴く。</p> <p><事前学習>将来の夢・目標を考えておくこと。</p> <p><事後学習>講演から学んだことを復習しておくこと。</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>
15	まとめ		<p><学習内容>これまでの講演内容・班別活動のまとめを行う。</p> <p><事前学習>講演・各講座内容の再確認</p> <p><事後学習>講演・班別活動の振り返り</p> <p>(事前学習) 0.5 時間 (事後学習) 0.5 時間</p>